

アクチュアリーの仕事と重要性について



平成26年11月22日

目次

1. アクチュアリーとは
2. 年金アクチュアリー
3. アクチュアリー試験の概要
4. 現状の業態分布
5. 年金数理人
6. アクチュアリーの将来性

1. アクチュアリーとは

確率論・統計学などの手法を用いて、将来の不確定な事象を扱う数理のプロフェッショナル
(日本アクチュアリー会の試験合格で資格を取得)



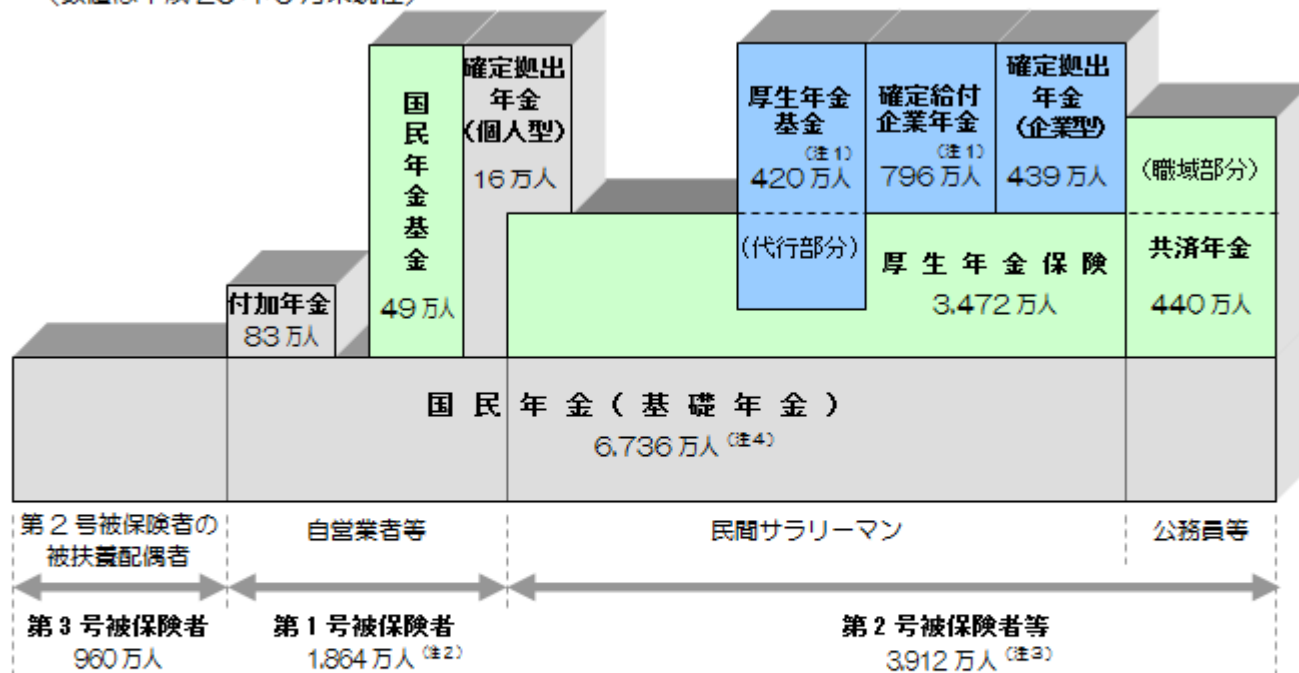
- 信託銀行
- 生保
- 損保 ほか

主に年金・保険分野において、
様々な数理計算やコンサルティングを行う

2.年金アクチュアリー

(1) 日本の年金制度

(数値は平成25年3月末現在)



(注1) 厚生労働省『社会保障審議会企業年金部会 第2回』による。

(注2) 第1号被保険者には任意加入被保険者を含む。

(注3) 第2号被保険者等は、第2号被保険者のほか、65歳以上で老齢または退職を支給事由とする年金給付の受給権を有する者を含む。

(注4) 国民年金(基礎年金)の被保険者数は第1号被保険者、第2号被保険者等、第3号被保険者の単純合計である。

2.年金アクチュアリー

(1) 日本の年金制度

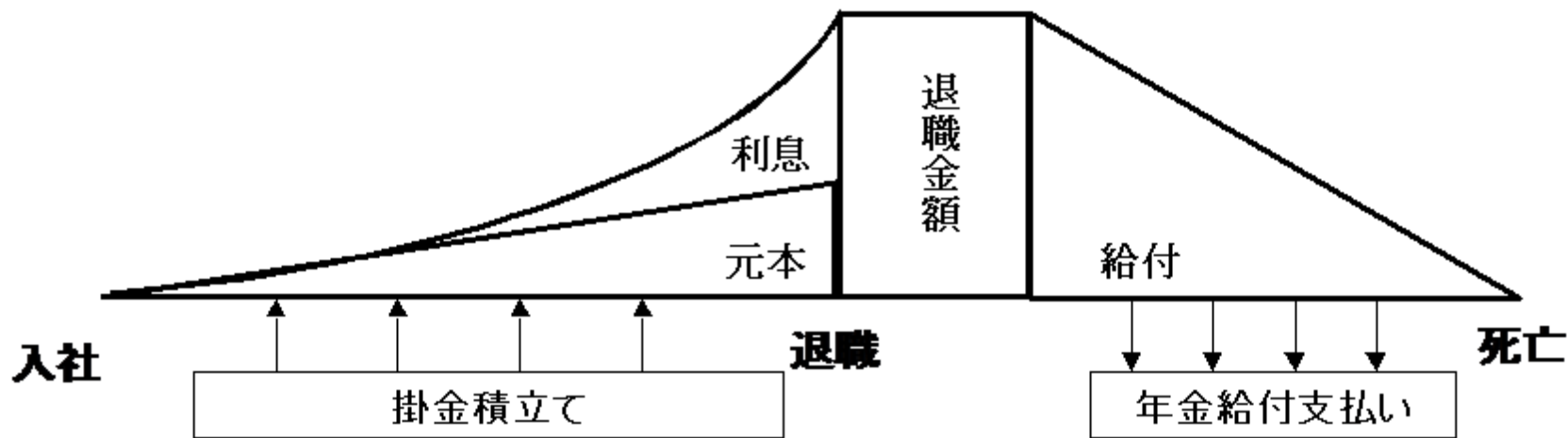
老後に必要な生活費は約23～28万円

ゆとりある生活費は約38～39万円

公的年金：23万円

2.年金アクチュアリー

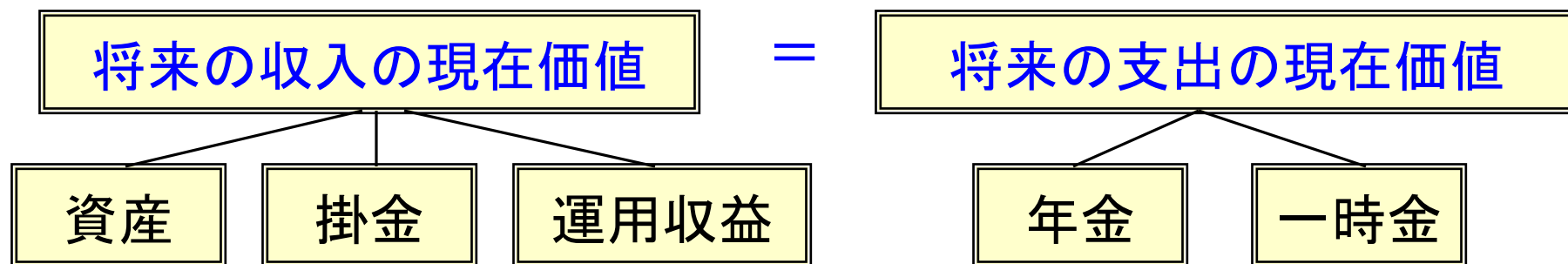
(2) 企業年金の仕組み



給付 = 掛金 + 運用収益 → 収支相等の原則

2. 年金アクチュアリー

(3) 掛金計算



統計等の
数的手法

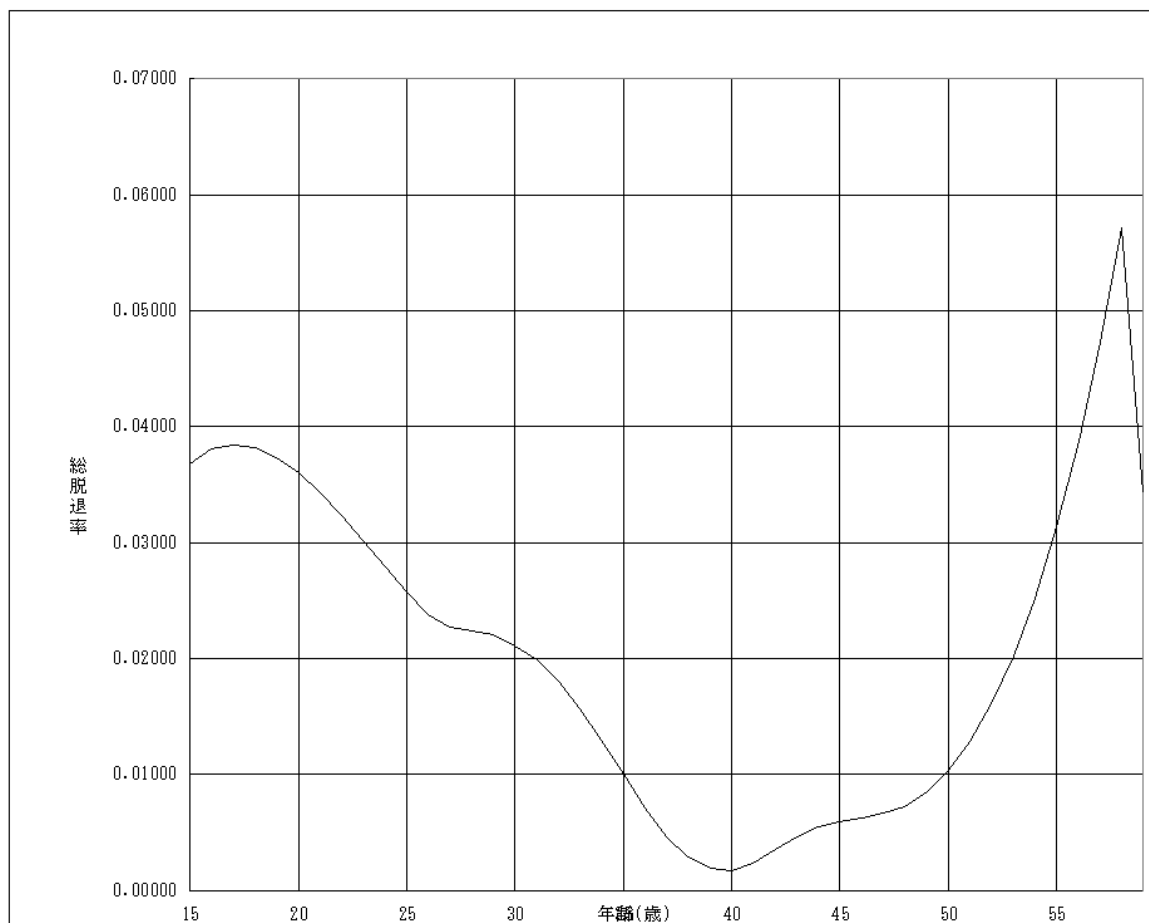
- ・ 将来の退職発生確率及び退職給付見込額の算定
(従業員の将来の退職見込は？退職時点の給与の見込は？)
- ・ 年金を何年受給すると見込まれるか？その現在価値は？
- ・ 将来に渡って収支がバランスする掛金は？

社会的
重要性

- ・ 企業年金制度が傾くと、その企業の従業員や年金受給者の生活に影響あり！
- ・ 金額規模が大きく、企業会計、税金等への影響が大きい

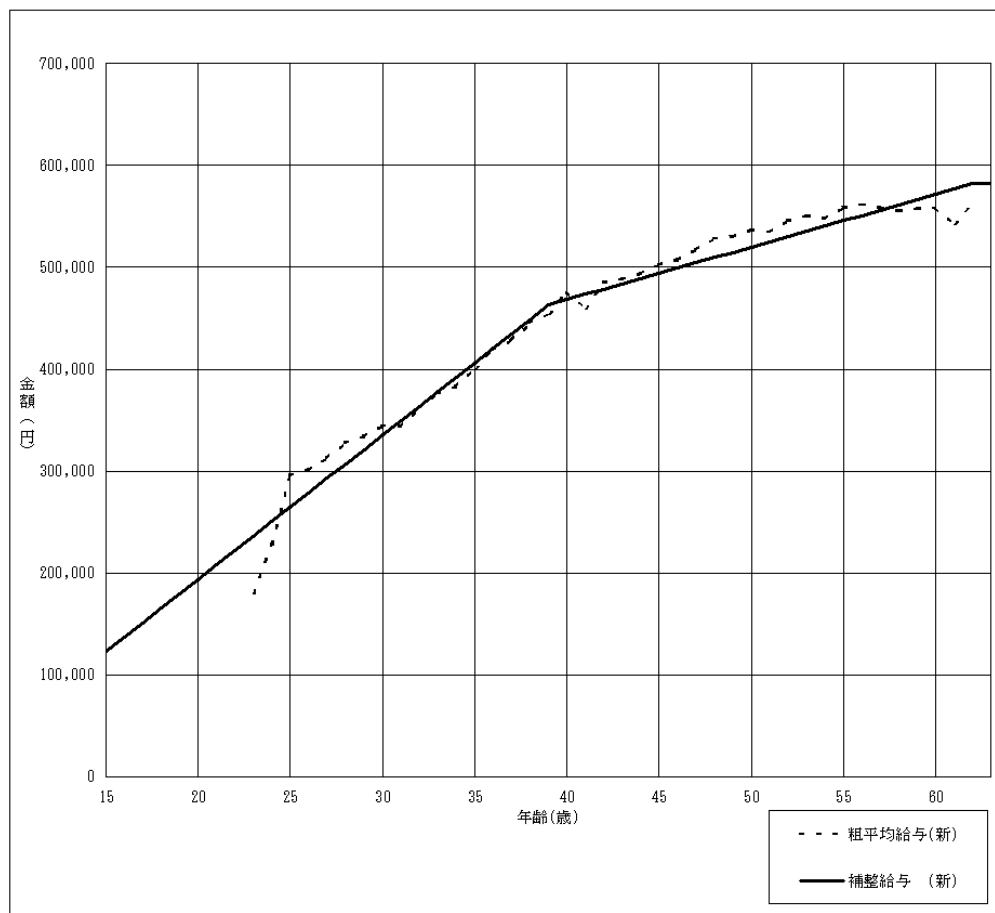
2. 年金アクチュアリー

脱退率



2. 年金アクチュアリー

昇給指数



2. 年金アクチュアリー

(4) 企業年金におけるアクチュアリーの法定業務

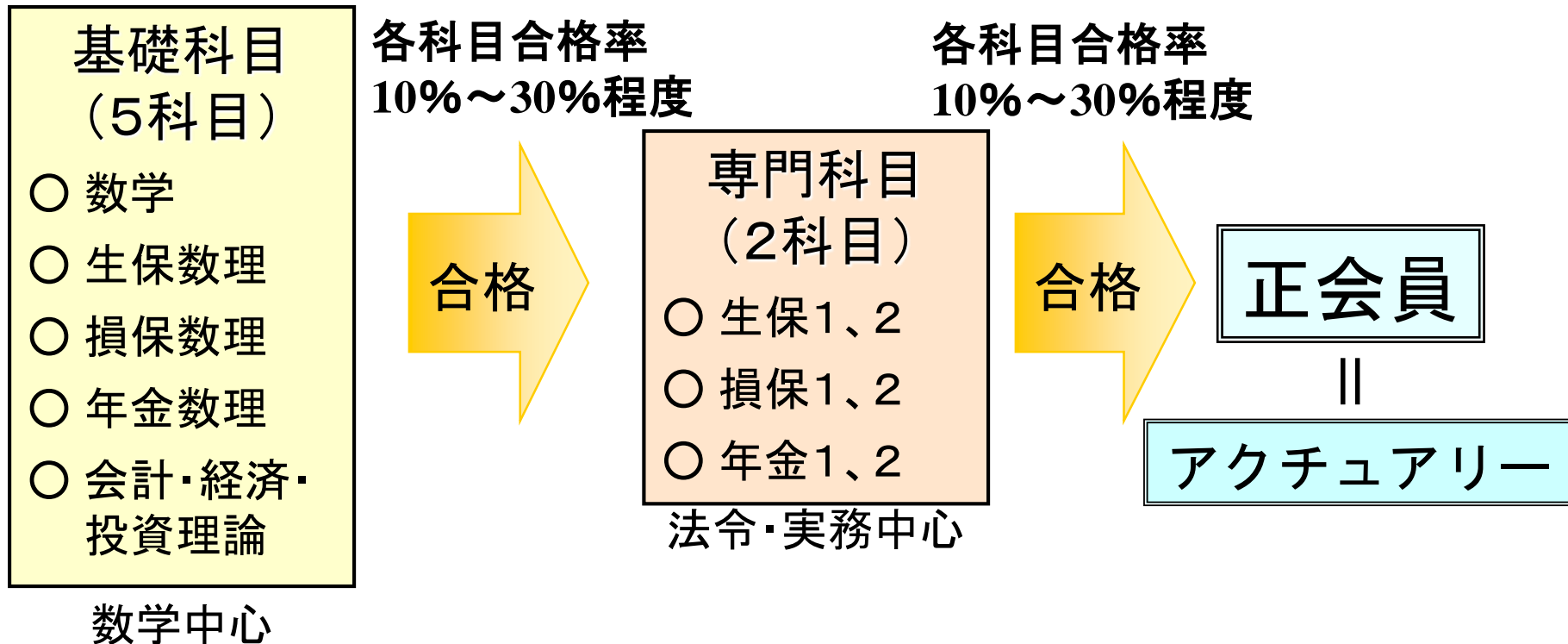
数理計算が「適正な年金数理」に基づいていることを担保



アクチュアリーのうち一定の業務経験要件を満たす「年金数理人」が、厚生労働省への提出書類を確認し、署名捺印することが必要。
＝ アクチュアリーの専管業務

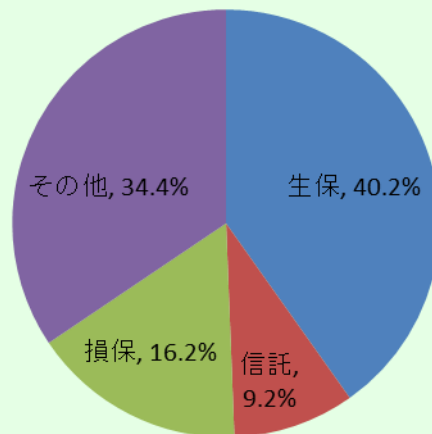
3. アクチュアリー試験の概要

日本アクチュアリー会の資格試験



4. 現状の業態分布(H26.3.31現在)

	生保	信託	損保	その他	計
正会員	635	182	206	412	1,435
準会員	561	148	239	326	1,274
研究会員	691	102	315	879	1,987
計	1,887	432	760	1,617	4,696



5. 年金数理人

- ・アクチュアリー試験合格
(または日本年金数理人会能力判定試験合格)
- ・年金数理業務に5年以上従事
- ・年金数理業務で2年以上責任者として従事



- ・厚生労働大臣に認められて「年金数理人」となる。
正会員:465名、準会員:96名(2014年10月)

6. アクチュアリー性の将来性

<年金>

○財政運営のアドバイス

アクチュアリー(年金数理人)の立場で年金制度の
今後の財政運営に対し助言を行う

○企業会計の退職給付債務計算

上場企業、海外上場企業に対する計算

○各種コンサルティング

年金制度の設計、企業財務・税務への影響分析

6. アクチュアリーの将来性

<生命保険>

- ・金融の自由化
- ・少子高齢化
- ・会社の健全性

<損害保険>

- ・金融と保険の融合
- ・クレジットデリバティブや天候デリバティブ

<その他>